

『子どもの豊かな育ちと地域支援』 小木美代子・  
姥貝壮一・立柳聡 編著

猪山, 勝利  
長崎大学教育学部

<https://doi.org/10.15017/9055>

---

出版情報：生活体験学習研究. 4, pp.123-124, 2004-01-30. 日本生活体験学習学会  
バージョン：  
権利関係：

## 『子どもの豊かな育ちと地域支援』

小木美代子・姥貝壮一・立柳聡 編著



本書は、社会教育推進全国協議会の「子ども分科会」に結集した研究・実践者による子育てと地域支援に関する理論と実践を総合化した意欲的な書である。本書は、1996年に上梓された『子どもの地域生活と社会教育』を進化・発展させ、編著者等による『子育て学へのアプローチ』（エイデル研究所、2000年）の理論・実践研究を継承して上梓されており、時宜にかなった好著である。

筆者たちは、一貫して実践に即して理論形成する立場に立ち、こどもの権利条約をふまえて『子育て学』を提唱し、新たな学的視座を形成するとともに、地域での子育て実践を豊富に提起している。

筆者らが提唱する子育て学は、こどもの育ちを近代の学校主導から解き放ち、総合的に把握する理論視座から形成しようとするアプローチを試みている。した

がって、その研究アプローチは、①臨床学であること、②実践学であること、③学際学であること、④発達論の視点にたつこと、を提起している（立柳「『子育て学』の実践的・理論的課題」）。このアプローチは意欲的であり、従来の社会教育学を超えた視座を形成する研究アプローチであり、特に発達心理学、教育福祉学、教育文化学との学際研究は、こどもの発達主体性を析出する論理を形成しており、これからのこども研究に大きな示唆を与えるものである。

筆者らは、理論的に「こどもの育つ環境」を家族、学校、地域、文化環境の総合的視点から精査し、こどもの発達に地域が果たす意義と基本課題を提起している。特に、深作拓郎は「こどもの育ちと地域の教育力」論文において、抽象的「教育力」概念よりも、地域の教育性を明らかにする内容として、地域の教育資源（①日常の自然環境・文化・風習など、②地域人材、③学習空間）と地域の教育機能（①感化、②影響、③模範、④指導）を析出し、その地域教育性によって、〈役〉の創生をめざす子育て「社会教育」の構造として、1. こどもが主体のA、大人の助言を受ける自主的主体形成をめざすプレ社会教育、B、こどもが主体となって展開する学習活動、2. 大人の学習活動として、C、こども支援の大人の学習活動、D、子育て支援のプロデューサーの学習を構造化している。

これらの意欲的理論形成は、これからの子育て論の基底を定位したのものとして高く評価できるが、今後、地域での子育ては、家庭や学校ではなしえない、どのような発達性を保障しうるのかについて、筆者らの内容論を期待したい。とともに、地域でのこどもの〈役〉は「地域元気づくり」にとどまらず、新たな地域創造の役割をもつことについても、これからの課題として論究が望まれる。

本書の第2部は、実践編であり、1. 地域のこども施設の新しい動き（6報告）、2. 子育て・子育て支援の多様な展開（6報告）、3. こども・大人参画の地域・学校づくり（5報告）、4. こどもの豊かな育ちと地域支援に向けて（4報告）の構成で、21の実践報告がなされている。いずれも地域での子育てにかかわる豊かな実践報告であり、これからの地域子育ての方向性を示唆するものである。

最後には、関連法規や戦後こどもの略年表も掲載さ

れており、本書はこれからの地域での子育て実践にか  
かわる関係者の必携書といえる。

[学文社、2002年、2400円税別]  
(長崎大学 猪山 勝利)